



●NIAの予定 3月～4月●

* 新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、3月末(予定)まで、NIA各部会で行っている学習会、予定されている行事・イベント等を延期または中止とします。

●学習者紹介●

- ① 名前 (学習 曜日)
- ② 出身 国、都市
- ③ 趣味
- ④ 担当日本語ボランティア



- ① 呂 哲坤 (水)
- ② 中国、大連市
- ③ ドライブ、読書、料理
- ④ 須田 妙子



- ① グエンティカム ニュン(木)
- ② ベトナム、ホーチミン市
- ③ 旅行、映画、ショッピング
- ④ 小坂 和子



●日本語ボランティア研修会 2月12日(水)●

中村 松男

日本語ボランティア(月)

吉田聖子先生(地域人材育成コーディネータ)



→をお迎えして、『日本語学習者との接し方ー入門から上級までー』というテーマで開催されました。(参加者44名)

前半は「日本語学習者から話を引き出す・組み立てる」をテーマに事例の研究をおこない、イラストを見て学習者と話す筋書きを考え、グループで話し合いました。1枚の絵から、学習の状況に応じて様々な日本語の例文が引き出せることを、教えていただきました。後半は、学習者との接し方や教え方など、個別の課題や悩みについてグループで話し合い、吉田先生から多くのアドバイスをいただきました。



研修開催にあたってご尽力いただいた幹事の皆様に感謝いたします。(中村さんは、2019年度日本語ボランティア養成講座を修了)

●日本語能力試験合格おめでとう●



出身国	担当
N2 劉 開文 (卒業生)	加藤 宏
N3 グインティアツオツ(木)	小森 康子
N4 モーリ マラツィ(木)	野中 泰子

●日本語教室の会場変更のご案内●



4月15日(水) 特別会議室(6階)、研修室・和室(5階)

●日本語教育講演会 2月17日(月)●

山澤 正博

日本語ボランティア(土)



松戸市国際交流協会の主催で、教材に『みんなの日本語』を使用し、日本語学習を進める時の留意点等を、具体的に指導していただきました。学習ポイントを整理すると①学習者に示す文法項目は文型だけでなく、会話や例文に入っていることを確認し指導する(例「よ」などの助詞)

②学習者に「わかりますか」と問いかけるのは、学習者が自由に話せなくなるので避ける。学習者が例文を作ることで理解してもらう方法もある③『みんなの日本語』の例文だけでなく、学習者が出会う、身近な場面を想定した例文を多く作って練習すると、正確に理解できる、とのことでした。今後の活動に活用できるところは、活かしていきたいと思っております。

●日本語教室ありがとう●

周 雪 学習者(火・水) 中国 出身



今年3月で日本語教室を卒業になります。

あっという間に4年が経ちました。4年の間にたくさんの素敵な思い出ができました。書道や華道などの色々なイベントに参加し、日本の文化や生活習慣を体験することができて、楽しかったです。また、小澤友恵先生(日本語)と佐伯京子先生(漢字)のおかげで、日本語能力試験N2に合格でき、とても嬉しかったです。こうして日本語を学ぶ場や、日本文化に触れる機会を与えてくださった先生方やスタッフの皆様、並びにNIAに大変感謝しています。ここで学習した時間、知り会えた皆さんは、私にとって一生の思い出です。本当にありがとうございました。



●私の海外体験記①● 中国 北京

しみず よしえ にほんご ボランティア(水)
清水 良江 日本語ボランティア(水)



私は去年の4月まで中国の北京で生活して
いました。北京は首都だけあって、政治の中
心だけでなく、中国全土の美味しいものが集
まった美食の大都市でもあります。毎日
美食三昧で、少し胃を休めたい時には、
いつもお粥のお店に行きます。中国のお
粥の種類はとても多く、どれも体にいい
ものばかりです。



私が特に気に入っているのは、美
容にとってもいい、
「紅豆薏米粥」で
す。このお粥の中
には、小豆、ハト
ムギ、白米、なつ
め、蓮の実、百合
根などが入ってい
ます。これらが長
時間煮込まれてト
ロトロで、ほんの
あま
り甘く、とてもお
いしいです。お粥
のお店はたくさん
ありますが、私は



うえ 紅豆薏米粥(ホンドウ イーミー ジョウ)と
した 嘉和一品店(ジャー フー イーピン ディエン)



家の近くにあった「嘉和一品店」というお店に通っていま
した。お店に入ると、すべてのテーブルにQRコードが貼
ってあり、携帯で読み取るとメニューが出てきて、注文か
ら支払いまで簡単にできます。

北京では、携帯
電話を使った電子
決済が急速に普及
し、外国人にとっ
ても便利で助かり
ます。交通機関、
買い物、食事など
すべてを携帯電話
の電子決済で済ま



中国での二大電子決済サービス
(左) WeChat Payと(右) ALIPAY
せ、多くの方がお財布を持たない生活をしています。タク
シーに乗る時は、携帯に行き先を入力すれば、その場にタク
シーが迎えに来てくれます。そして、運転手さんに改め
て行き先を伝えなくても、目的地まで乗せてくれます。外
国人にとっては、言葉を言い間違えたり、聞き間違えたり
するのを防ぐことができ、とても便利です。

子供は現地の学校に通いましたが、なんと、学費もWe
Chat Payで先生にメールを送れば、支払いが完了となり
ました。ここまで電子決済が普及した理由は、「中国の人
々が、新しいものをそれ程抵抗なく取り入れるという国民
性にあるのかな」と考えられます。この先さらにどんな発
展を遂げるのか、目が離せません。